守るべき場所 福島潟

～次世代に残すために～

外川明里
泉田葵
松本優那

福島潟の魅力

新潟には多くの潟があり、それらを代表する福島潟はたくさんの魅力を持っている。その魅力は大きく分けて三つだ。

一つ目は『動植物の数の多さ』だ。福島潟は全国的に見ても動植物の数が多く、野鳥は二百二十種、植物は四百五十種が生息していると言われている。自然の宝庫と言われるほどにだ。福島潟は百九十三ヘクタールの内、百六十三ヘクタールが国指定鳥獣保護区に指定されており、春から夏にかけてオオヨシキリやカッコウ、ゴイサギやカイツブリが姿を見せ、秋から冬にかけてはオオヒシクイ、カモ、カシラダカが訪れる。そして福島潟はオニバスの自生地として国内最北端である。

二つ目は『福島潟の与えてくれる癒し』だ。福島潟には多くの癒し要素もある。オオヨシキリやカッコウが朗らかにさえずり、秋から冬にかけてはガン・ハクチョウ類の大群が訪れ、鳴き声や羽ばたきの音は「日本の音風景百選」にも選ばれるほどである。広大な湿地やヨシ原、水生植物の緑、春には黄色い名の花畑など季節ごとに様々な風景を見ることができ、リラックス効果や開放感を与えてくれる。

三つ目は『潟の伝統文化の体験』だ。福島潟の体験企画には潟舟体験というものがある。それは昔、福島潟近くの人々は潟の中で木舟を操り、漁をして生計を立てていたというものである。他にも福島潟に群生しているヨシを百パーセント原料にして手すきで和紙を作るヨシあし和紙作りという自然文化祭などの福島潟イベントに合わせての企画も行なっている。



福島潟の課題

～外来種について～

福島潟には、さまざまな外来種が生息している。

外来種には、ブラックバスのように食欲が旺盛で、餌をたくさん食べることによって生態系に影響を与えてしまうものや、アカミミガメのように長生きし、周囲の草を刈り尽くして棲家を奪ってしまうものなどがいる。福島潟にはこのような外来種が現在多く生息している。

福島潟は国の特定指定鳥獣保護区であり、福島潟に生息していた生き物たちが外来種によって棲家を奪われたり、餌がなくなったりすることがある現状は大きな問題である。

そんな外来種がやってくる主な原因は、元々人間がペットとして飼っていたものを自然の中に離してしまうことや、釣りや食用で持ち込まれることが多い。

外来種を減らし、福島潟の生態系を保つための市民が参加できる取り組みとして、七、八月ごろに福島潟で新潟市主催のアメリカザリガニを釣って駆除するイベントや、福島潟主催で行われる、ブラックバスの駆除などの活動がある。例えば、これ以上外来種を増やさないために、自分でできる活動がある。これらの活動以外にも個人でできることとして、別の場所で獲った外来種を他の場所に放したり、飼っていたペットを放したりしないように気をつける、などが挙げられる。このような小さな活動でも、外来種を減らして行くことに大きく貢献することができるため、たくさんの人にぜひ実践してほしい。

外来種は、もとは人間が飼っていたものを放す、という小さな行動で福島潟の美しい景観や生態系を大きく壊してしまう原因になってしまうため、福島潟に訪れるときは、一人一人が生き物を「入れない」「広げない」「放さない」ということに気をつけて外来種を少しずつ減らして、自然を守ることが重要だ。



みんなに伝える！

福島潟の魅力をたくさんの人に伝える取り組みとして、福島潟自然文化祭がある。このイベントでは、冬に訪れるオオヒシクイを地域全体で迎えるため、LEDライトをオオヒシクイの形に並べ、点灯させる「雁迎灯」という取り組みを行なっている。この雁迎灯の製作には地元の中学生が関わっていて、私たちも毎年、雁迎灯のデザイン案を出したり、LEDを並べる作業に参加したりしてきた。また、小学生もこの文化祭で総合学習で調べたことを発表する取り組みを行なっていて、地域全体の交流の場となり、福島潟の魅力を未来へ伝え続けていくきっかけにもなっている。

そして、昨年から新しく始まった取り組みとして、「ここ華プロジェクト」がある。このプロジェクトは大切な自然やまちを守りながら、新たな「にぎわい」を創出するため、この文化祭で花火を打ち上げるというプロジェクトだ。私たちも、このプロジェクトを応援したいと思い、学校で生徒や先生方に向けた募金活動という形で協力させていただいた。その結果、たくさんの方々からのご協力をいただき、こんなにたくさんの人に愛されている福島潟の魅力をもっといろんな人に知ってもらいたいと改めて思った。

この花火は水辺を守るため、打ち上げ時間の短縮や打ち上げ場所の調整など様々な工夫がされている。それによって、自然と共存し、自然を生かしながら、水辺の魅力を多くの人に伝えることができている。

まとめ

私たちは福島潟について調べ、地域の水辺がどれだけ多くの人に愛されているのかということを改めて体感することができた。毎年、小学生によって菜の花の種が植えられ、その畑にたくさんの人が訪れる。秋になると自然文化祭を盛り上げ、オオヒシクイを迎えるために毎年多くの方々が参加している。例えば、地元の中学生が雁迎灯のLEDライト設置に参加したり、花火の打ち上げ時のアナウンスをさせていただいたりして地域の方々と協力しながら、自然文化祭を盛り上げるための取り組みを行なっている。

そして、外来種などの課題には、駆除に取り組んでくださるボランティアの方々がいる。そんなたくさんの人たちの協力や力によってこの福島潟の美しい自然は今まで守られてきたのではないだろうか。そんな自然をさらに未来へと繋ぐために、私たちも自分たちのできることに取り組んで行きたいと思った。